

# 夏休みにおける子どもの生活体験

南 本 長 穂

(教育学研究室)

(平成8年9月30日受理)

## Elementary School Students' Life Experience in Summer Vacation

Osao MINAMIMOTO

### 1. 研究の目的

子どもは夏休みをどのように過ごしているのか。平成4年9月から月1回、平成7年4月から月2回の週5日制が実施されているが、次回の教育課程の基準の改定の時には、週5日制の完全実施が既定の現状にあると思える。月1回の導入の時期に比べると、月2回の導入以後の週5日制に関する問題への最近の関心は低下したかの状況にある。導入時には、休日となる土曜日に、地域で子どものためにどのような行事や活動を組織化すればよいかといったことが大きな関心事となったけれど、今日では、保護者や教師のこの問題への関心は高くはない。なぜこの問題への関心が急速に低下していったのであろうか。もちろん、このことは興味ある問題ではあるが、本稿では、次のことを中心に検討していくことにする。

今後増加するだろう休業日における学校外での子どもの生活に焦点をあわせ、とくに長期にわたる休業日である夏休み、この期間における子どもの生活体験の現状を明らかにしていく。

ところで、夏休み、冬休み、春休みなどの長期にわたる休業日に、子どもがどのような生活をしてきているのか。この長期にわたる休業日における子どもの生活を実証的に検討した研究はこれまでは少ない。

では、長期の休業日は子どもの生活にとってどのような意味をもっているのか。例えば、東京都のある小学校長は夏休みの教育的意義を、子どもの自主性を育てるなど、5つにまとめている<sup>(1)</sup>。たしかに、こうした夏休みのもつ教育的意義を実現していく指導は重要であろう。そして、今日まで学校や教師は夏休みにおける望ましい生活のあり方といった生活の心得的なものの指導をたしかに実施してきている。しかし、こうした夏休みのもつ教育的意義を実現するために、どの程度重点をおいた指導がなされてきているか。学校内での学習や生活の指導に比べて、夏休みにおける生活や学習の現状はそれほど明らかになっていないことを考えると、こ

の問題は十分に解明されてきているとはいえない。つまり、夏休みにおける子どもの生活や学習は個々の家庭にまかされてきた経緯があるのではないか。言いかえると、学校や教師は子どもの夏休みの生活に積極的にはかかわらなかったとも言えるのではないか<sup>(2)</sup>。

したがって、週5日制に対して、教師や教育行政当局の関心よりも、保護者の方がより冷静に対応してきている局面もみうけられる。夏休み、冬休み、春休みなどの長期にわたる休業日に比べると、週5日制のもとでの子どもの生活や学習を、大きな問題とはとらえていないのではないか。もちろん、学童保育などの行政的施策が進められていることも無関係ではない。この点を踏まえて、夏休みという長期にわたる休業日における子どもの生活体験を、研究対象として取りあげることが、子どもの生活と学習を考える上で重要ではないかと考えた。

以上の問題設定から、子どもの長期休業日の過ごし方として夏休みを取りあげ、まず、夏休みにおける子どもの生活の現状を明らかにしていくことにする。そして、こうした実態解明から週5日制の完全実施以降の休日の増加と子どもの生活体験や生活の変化との関連性を明らかにすることができるのではないかと考えた。もちろん、子どもの生活体験をみると、近年になるほど、勉強時間とテレビやファミコンなどの遊びに代表されるような間接経験は増加するが、身体をつかった遊びや手伝いなどの直接体験は減少傾向にあるということが指摘されて久しい<sup>(3)</sup>。生活体験の質も、量も変化しているのではないか。こうした子どもの生活体験の問題が、もっとも顕著にあらわれる夏休みの期間をみることによって、今日、学校教育にその必要性が要請されている体験学習の展開にも寄与できるのではないかと考えた。

本稿では、つぎの3点に焦点を合わせて、調査結果に基づき検討していく。

第1点は、夏休みの楽しさ感覚、つまり子どもは夏休みをどのように受けとめているかを、「楽しさ」という点からみていく。

第2点は、夏休みの生活のおもな場(拠点)となる家庭での生活体験を取りあげる。とくに、生活体験としての夏休みのお手伝いの現状はどのようなものであるかをみていく。

第3点は、夏休みの生活体験を明らかにしながら、この生活体験が学校教育での「教科」の学習とどのような関連にあるのか。夏休みにおける子どもの生活体験は、学校での教科の学習と無関係なものなのか。あるいは逆に、深くかかわっているのかという点を検討していく。

## 2. 調査の方法と回答者の属性

調査は、愛媛県松山市及び松山市に隣接する伊予郡松前町の計4つの公立小学校で実施した。表1が調査の概要であり、表2が回答者の属性を示している。有効回答を得たのは、小学校5年生(428人)と6年生(480人)、合計908人であった。調査は、学級で調査票に記入する回答方式により実施した。調査実施時期は、1995(平成7)年10月である。なお、愛媛県では、夏休みの期間は通常7月21日から8月31日までである。

表1 調査の概要

調査時期	1995年10月
調査地域	愛媛県松山市、松前町
調査対象者	公立小学校5、6年生(4校)
回答者	908人
調査方法	学級での集合調査

表2 回答者の属性

5年生	47.1%	428	男子	51.3%	466
6年生	52.9%	480	女子	48.6%	441
計	100.0%	908	無答	0.1%	1
			計	100.0%	908

## 3. 調査結果の報告

## 1) 「楽しさ度」からみた子どもの夏休み

まず、表3は、「夏休みを通して、楽しかったですか」という設問への回答である。結果をみると、男女別には差異がみられない。だが、学年別にみると有意差が認められる。5年生の方が「たいへん楽しい」と回答している者の比率が高い。その回答率は、5年生で65.0%、6年生で49.5%である。5年生の方が楽しさの度合いが高い。なお、「大変楽しかった」「まあまあ楽しかった」の2つの回答数値をあわせると、5年生は96.3%、6年生は93.8%であり、ほとんどの子どもが夏休みを楽しかったととらえている。

では、なぜ5年生の方が6年生に比べて楽しいと感じる者の比率が高くなっているのか。これには、子どもの夏休みの生活体験が深く関係してはいないだろうか。生活体験に着目することの意義が、今日、地域や家庭のなかでの子どもの生活の変化に対応して指摘されることが多い<sup>(4)</sup>。今の親の世代が当然のこととして地域や家庭のなかで体験してきたことが、今の子どもの生活のなかでは体験することが困難になってきている。このために、学校の教育課程のなかでどのように体験（学習）を意味づけ、位置づけていくかということも、今日の学校教育の重要な課題になってきている<sup>(5)</sup>。

表4では、「夏休みは、もっと長いほうがよいと思うか」を聞いた。男女別にも、学年別にも有意差が認められる。例えば、「もっと長いほうがよい」と答えた者は、男女別には、男子で81.9%、女子で74.8%。学年別には、5年生で81.6%、6年生で75.7%である。このことから、5年生が6年生よりも、夏休みの楽しさを感じていることがわかる。

学年の進行につれての「楽しさ」を感じる割合が減少していることの原因を、次の作業仮説を設定して、学年別、男女別に以下で検討していくことにした。

1つに、5年生が夏休みを楽しんでいる度合いは、6年生のそれに比べて、生活体験と関連性をもっているのではないか。

2つに、夏休みの生活体験には、男女別にみてどのような差異がみられるのか。「楽しさ」を感じているという点では差異がないが、男子の方が「もっと長いほうがよい」と答えている点を考えていく。

表3 夏休みを通して楽しかったか

	学年別		男女別		全体
	5年生	6年生	男子	女子	
大変楽しかった	65.0	49.5	57.0	56.3	56.7
まあまあ楽しかった	31.3	44.3	36.3	40.3	38.3
あまり・全く楽しくなかった	3.7	6.2	6.7	3.4	5.0
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

$\chi^2=19.88$        $\chi^2=5.14$   
 $df=2$                $df=2$   
 $p<.0001$

表4 夏休みはもっと長いほうがよいと思いますか

	学年別		男女別		全体
	5年生	6年生	男子	女子	
もっと長いほうがよい	81.6	75.7	81.9	74.8	78.4
今ぐらいでよい	16.5	18.9	13.6	22.2	17.8
もう少し短いほうがよい	1.9	5.4	4.5	3.0	3.8
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

$\chi^2=9.26$        $\chi^2=12.38$   
 $df=2$                $df=2$   
 $p<.01$                $p<.01$

2) 夏休みにおける家庭での「お手伝い」体験

夏休みにおける生活体験を考える場合、まず重要なことは子どもの生活の大部分が家庭という場所でおこなわれるということである。このために、子どもの生活のなかで、当然のこととして家庭生活の役割の一部を担うもの、言いかえると「お手伝い」が子どもの生活のなかでどのような地位をしめているのかという問題が重要となる。お手伝いに関する設問を通して全体的な傾向をみると、学年別よりも、男女別に差異が大きかったという結果が得られた。以下それを少し詳しくみていく。

表5では、「夏休みによくお手伝いをしましたか」とお手伝いをどの程度おこなったかという子どもの意識を聞いた。これには男女別に有意差が認められた。すなわち、「とてもよくあてはまる」と答えた者が、男子の13.0%に比べて、女子は28.0%と、二倍以上の数値の開きである。さらに、「まあまああてはまる」を加えると、お手伝いをしたという意識をもつ者は、男子で42.2%、女子で68.3%。意識レベルにあらわれた男女差は大きい。また、学年別にみても、少し有意差が認められ、5年生の方が6年生に比べて、お手伝いをしたという意識がよりみられる。

そこで次に、どのようなお手伝いを、どの程度したのかをみる。お手伝いの内容を、家庭生活にかかわる衣、食、住の領域にしたがって3つに区分することにした。すなわち、1つは、衣に関するものであり、洗濯、アイロンくつみがきなど。2つは、食に関するものであり、食卓、食器の用意と片(かた)づけ、調理など。3つは、住に関するものであり、そうじなどである。

まず、衣に関するお手伝いを、表6-1から表6-5に示した。

表5 夏休みによくお手伝いをしましたか

	男女別		学年別		全体
	男子	女子	5年生	6年生	
とてもよくあてはまる	13.0	28.0	23.6	17.5	20.3
まあまああてはまる	29.2	40.3	36.6	32.8	34.6
あまりあてはまらない	33.3	23.7	25.5	31.3	28.6
まったくあてはまらない	24.6	8.0	14.4	18.4	16.5
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

$\chi^2=78.34$   $\chi^2=9.82$   
 $df=3$   $df=3$   
 $p<.0001$   $p<.05$

表6-1 洗濯をする

	男女別		学年別		全体
	男子	女子	5年生	6年生	
ほぼ毎日・週に2・3回	7.7	22.2	16.6	13.2	14.8
週に1回・夏休み中に2・3回	26.9	41.5	34.3	33.8	34.0
まったくしなかった	65.4	36.3	49.1	53.0	51.2
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

$\chi^2=83.72$   $\chi^2=2.51$   
 $df=2$   $df=2$   
 $p<.0001$

表6-2 洗濯物を干す

	男女別		学年別		全体
	男子	女子	5年生	6年生	
ほぼ毎日・週に2・3回	9.2	34.5	24.8	18.5	21.5
週に1回・夏休み中に2・3回	35.0	39.9	37.1	37.7	37.4
まったくしなかった	55.8	25.6	38.1	43.8	41.1
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

$\chi^2=118.76$   $\chi^2=5.87$   
 $df=2$   $df=2$   
 $p<.0001$

夏休みにおける子どもの生活体験

表6-3 洗濯物をたたみ, しまう

	男女別		学年別		全体
	男子	女子	5年生	6年生	
ほぼ毎日・週に2・3回	20.9	49.9	37.0	33.4	35.1
週に1回・夏休み中に2・3回	39.7	39.9	39.6	39.9	39.7
まったくしなかった	39.4	10.2	23.4	26.7	25.2
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

$\chi^2=130.93$      $\chi^2=1.81$   
 $df=2$              $df=2$   
 $p<.0001$

表6-1では、「洗濯をしたかどうか」を聞いた。男女別にみると有意差がみられ、「ほぼ毎日」と「週に2, 3回」と答えた者は、男子で7.7%, 女子で22.2%。

表6-2では、「洗濯物を干す」を聞いた。男女別にみると有意差がみられ、「ほぼ毎日」と「週に2, 3回」と答えた者は、男子で9.2%, 女子で34.5%。

表6-3では、「洗濯物をたたみ, しまう」を聞いた。男女別にみると有意差がみられ、「ほぼ毎日」と「週に2, 3回」と答えた者は、男子で20.9%, 女子は49.9%。

表6-4では、「アイロンをかける」を聞いた。男女別にみると有意差がみられ、「ほぼ毎日」と「週に2, 3回」と答えた者は、男子で3.7%, 女子で19.6%。

表6-5では、「靴をみがいたり, 洗ったりする」を聞いた。男女別にみると有意差がみられ、「ほぼ毎日」と「週に2, 3回」と答えた者は、男子で8.0%, 女子は14.5%である。

次に、食に関するお手伝いを、表7-1から表7-5に示した。

表7-1では、「食卓をふき, 食器の用意をする」を聞いた。男女別にみると有意差がみられ、「ほぼ毎日」と「週に2, 3回」と答えた者は、男子で32.7%, 女子は68.6%。

表7-2では、「食器を洗い, 片づける」を聞いた。男女別にみると有意差がみられ、

表6-4 アイロンをかける

	男女別		学年別		全体
	男子	女子	5年生	6年生	
ほぼ毎日・週に2・3回	3.7	19.6	13.7	9.4	11.4
週に1回・夏休み中に2・3回	22.1	41.3	32.1	30.8	31.4
まったくしなかった	74.2	39.0	54.2	59.7	57.2
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

$\chi^2=125.28$      $\chi^2=4.84$   
 $df=2$              $df=2$   
 $p<.0001$

表6-5 くつをみがいたり, 洗ったりする

	男女別		学年別		全体
	男子	女子	5年生	6年生	
ほぼ毎日・週に2・3回	8.0	14.5	12.9	9.6	11.2
週に1回・夏休み中に2・3回	48.6	60.2	57.1	51.8	54.3
まったくしなかった	43.4	25.2	30.0	38.6	34.5
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

$\chi^2=36.11$      $\chi^2=8.26$   
 $df=2$              $df=2$   
 $p<.0001$          $p<.05$

表7-1 食卓をふき, 食器の用意をする

	男女別		学年別		全体
	男子	女子	5年生	6年生	
ほぼ毎日・週に2・3回	32.7	68.6	52.3	48.0	50.1
週に1回・夏休み中に2・3回	34.4	23.7	28.3	30.2	29.2
まったくしなかった	32.9	7.7	19.4	21.8	20.7
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

$\chi^2=135.98$      $\chi^2=1.76$   
 $df=2$              $df=2$   
 $p<.0001$

表7-2 食器を洗い、かたづける

	男女別		学年別		全体
	男子	女子	5年生	6年生	
ほぼ毎日・週に2・3回	20.1	49.4	38.5	30.7	34.4
週に1回・夏休み中に2・3回	38.3	37.6	35.7	40.1	38.0
まったくしなかった	41.6	13.0	25.8	29.2	27.6
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

$$\chi^2=122.71 \quad \chi^2=6.13$$

$$df=2 \quad df=2$$

$$p<.0001 \quad p<.05$$

表7-3 野菜などを洗う

	男女別		学年別		全体
	男子	女子	5年生	6年生	
ほぼ毎日・週に2・3回	9.7	35.7	23.8	21.3	22.5
週に1回・夏休み中に2・3回	36.5	39.1	39.2	36.5	37.7
まったくしなかった	53.8	25.2	37.0	42.3	39.8
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

$$\chi^2=114.51 \quad \chi^2=2.66$$

$$df=2 \quad df=2$$

$$p<.0001$$

表7-4 野菜などを包丁で切ったり、皮をむいたりする

	男女別		学年別		全体
	男子	女子	5年生	6年生	
ほぼ毎日・週に2・3回	11.9	42.4	30.0	23.9	26.8
週に1回・夏休み中に2・3回	47.2	44.2	47.2	44.3	45.7
まったくしなかった	40.9	13.4	22.8	31.7	27.5
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

$$\chi^2=140.25 \quad \chi^2=10.07$$

$$df=2 \quad df=2$$

$$p<.0001 \quad p<.01$$

表7-5 一人で献立を考え、作る

	男女別		学年別		全体
	男子	女子	5年生	6年生	
ほぼ毎日・週に2・3回	3.1	10.7	8.7	5.1	6.8
週に1回・夏休み中に2・3回	23.6	40.0	27.6	35.2	31.6
まったくしなかった	73.3	49.3	63.7	59.7	61.6
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

$$\chi^2=58.92 \quad \chi^2=8.88$$

$$df=2 \quad df=2$$

$$p<.0001 \quad p<.05$$

「ほぼ毎日」と「週に2, 3回」と答えた者は、男子で20.1%, 女子は49.4%。

表7-3では、「野菜などを洗う」を聞いた。男女別にみると有意差がみられ、「ほぼ毎日」と「週に2, 3回」と答えた者は、男子で9.7%, 女子で35.7%。

表7-4では、「野菜などを包丁で切ったり、皮をむいたりする」を聞いた。男女別にみると有意差がみられ、「ほぼ毎日」と「週に2, 3回」と答えた者は、男子で11.9%, 女子が42.4%。

表7-5では、「一人で献立を考え、作る」を聞いた。男女別にみると有意差がみられ、「ほぼ毎日」と「週に2, 3回」と答えた者は、男子で3.1%, 女子は10.7%。なお、この食のお手伝いの内容は、他の食の内容と違い作業過程の一部を手伝うのではなく、一人で全部の作業をする内容になっている。この数値が低いことから、家の人から作業の全体をまかされるようなお手伝いは少ないことが予想される。

最後に、住に関するお手伝いを、表8-1から表8-5に示した。

表8-1では、「自分の部屋を掃除をしたか」を聞いた。男女別にみると有意差がみられ、「ほぼ毎日」と「週に2, 3回」と答えた者は、男子で20.3%, 女子で43.9%。

夏休みにおける子どもの生活体験

表8-1 自分の部屋の掃除をする

	男女別		学年別		全体
	男子	女子	5年生	6年生	
ほぼ毎日・週に2・3回	20.3	43.9	31.8	31.7	31.7
週に1回・夏休み中に2・3回	67.0	50.9	60.0	58.5	59.2
まったくしなかった	12.7	5.2	8.2	9.8	9.1
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

$\chi^2=63.51$      $\chi^2=0.68$   
 $df=2$          $df=2$   
 $p<.0001$

表8-2 自分の部屋以外のところを掃除する

	男女別		学年別		全体
	男子	女子	5年生	6年生	
ほぼ毎日・週に2・3回	12.4	23.7	18.7	17.2	17.9
週に1回・夏休み中に2・3回	44.8	56.5	54.2	47.3	50.6
まったくしなかった	42.7	19.8	27.1	35.6	31.6
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

$\chi^2=59.50$      $\chi^2=7.56$   
 $df=2$          $df=2$   
 $p<.0001$      $p<.05$

表8-3 トイレの掃除をする

	男女別		学年別		全体
	男子	女子	5年生	6年生	
ほぼ毎日・週に2・3回	2.8	3.6	4.9	1.7	3.2
週に1回・夏休み中に2・3回	11.2	20.2	15.5	15.9	15.7
まったくしなかった	86.0	76.1	79.6	82.5	81.1
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

$\chi^2=14.97$      $\chi^2=7.73$   
 $df=2$          $df=2$   
 $p<.001$         $p<.05$

表8-4 お風呂の掃除をする

	男女別		学年別		全体
	男子	女子	5年生	6年生	
ほぼ毎日・週に2・3回	33.7	34.2	32.5	35.1	33.9
週に1回・夏休み中に2・3回	31.7	40.4	37.9	34.3	36.0
まったくしなかった	34.6	25.5	29.6	30.5	30.1
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

$\chi^2=10.82$      $\chi^2=1.35$   
 $df=2$          $df=2$   
 $p<.01$

表8-2では、「自分の部屋以外の掃除をしたか」を聞いた。男女別にみると有意差がみられ、「ほぼ毎日」と「週に2, 3回」と答えた者は、男子で12.4%, 女子で23.7%。

表8-3では、「トイレの掃除をしたか」を聞いた。男女別に有意差がみられ、「全くしなかった」と答えた者が、男子で86.0%, 女子で76.0%。掃除のなかでも、男女ともトイレ掃除はしていないことがわかる。

表8-4では、「お風呂の掃除をしたか」を聞いた。男女別に有意差がみられ、「全くしなかった」と答えた者が、男子で34.6%, 女子が25.5%。

表8-5では、「玄関や庭の掃除をしたか」を聞いた。男女別にみると有意差がみられ、「ほぼ毎日」と「週に2, 3回」と答えた者は、男子で14.8%, 女子で29.8%。

表8-5 玄関や庭の掃除をする

	男女別		学年別		全体
	男子	女子	5年生	6年生	
ほぼ毎日・週に2・3回	14.8	29.8	23.9	20.4	22.1
週に1回・夏休み中に2・3回	41.9	45.7	44.4	43.1	43.7
まったくしなかった	43.2	24.5	31.7	36.5	34.2
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

$\chi^2=46.65$      $\chi^2=2.85$   
 $df=2$          $df=2$   
 $p<.0001$

以上のことから、1つに、家庭生活におけるお手伝いを衣、食、住の領域に区分してみてきたが、比較的好くしていたのは、衣の領域では、「洗濯物をたたみ、しまう」、「靴をみがいたり、洗ったりする」であり、住の領域では、「食卓をふき、食器の用意をする」、「食器を洗い、片づける」であり、住の領域では、「自分の部屋の掃除」、「お風呂の掃除」である。そして、全体的にみてなされていないのは、「トイレの掃除」「一人で献立を考え、作る」である。2つに、学年別にみると、あまり差がみられないという特徴があった。差がみられたのは、衣の領域の「靴をみがいたり、洗ったりする」、食の領域の「食器を洗い、片づける」「野菜などを包丁で切ったり、皮をむいたりする」「一人で献立を考え、作る」、住の領域の「自分の部屋以外の掃除」「トイレの掃除」である。「一人で献立を考え、作る」を除いて、すべて5年生の方が、6年生よりも、よくお手伝いをしていることがわかる。3つに、男女別にみると、衣、食、住すべてで女子がよくお手伝いをしている。しかも、お手伝いをしているか、していないかにかかわっての男女差は非常に大きいことがわかる。

なお、男女差に関して、女子への期待が家庭で高いのではないかと考え、表9で、「家の人がお手伝いに関して何かいいましたか」という設問でみてみた。男女別にみると有意差が認められ、「はい」と答えた者は、男子で25.4%であるのに対して、女子では47.2%と高くなっている。なお、家の人がかけた言葉を自由回答形式で聞いているが、「ありがとう」「助かった」「よくできた」「がんばったね」などの称賛の言葉や、「少しは手伝いなさい」「真面目にいなさい」等の注意の言葉が多い。なお、「女の子なのだから手伝いくらいいなさい」という言葉かけも多くみられた。この結果から、女子のほうが、家の人からお手伝いに関しての言葉かけが多く、それだけお手伝いをする事への期待も大きく、それに対応してお手伝い体験を行っているという自己評価をしていることがわかる。

表9 家の人はお手伝いに関して何か言いますか

	男 女 別		学 年 別		全 体
	男 子	女 子	5 年 生	6 年 生	
はい	25.4	47.2	38.7	33.9	36.2
いいえ	74.6	52.8	61.3	66.1	63.8
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

$$\chi^2=45.01 \quad \chi^2=2.03$$

$$df=1 \quad df=1$$

$$p<.0001$$

### 3) タイプ別にみた子どもの生活体験

夏休みの子どもの生活体験を、文化的体験、自然体験、人とのかかわり体験、創作体験、社会体験、芸術文化体験、家庭生活体験の7つに区分し、以下みていく。

第1に、今年の夏休みに行った文化的体験について聞いている。

表10-1では、「博物館に行きましたか」という設問への回答である。男女別をみると、有意差はない。しかし、学年別にみると有意差がみられ、「はい」と答えた者は、5年生で、47.4%、6年生で31.9%である。

表10-2では、「美術館に行きましたか」という設問への回答である。男女別をみると、有意差はない。だが、学年別にみると有意差

表10-1 博物館に行きましたか (文化的体験)

	学 年 別		男 女 別		全 体
	5 年 生	6 年 生	男 子	女 子	
はい	47.4	31.9	39.0	39.2	39.1
いいえ	52.6	68.1	61.0	60.8	60.9
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

$$\chi^2=21.84 \quad \chi^2=0.00$$

$$df=1 \quad df=1$$

$$p<.0001$$

夏休みにおける子どもの生活体験

がみられ、「はい」と答えた者が、5年生で、19.0%、6年生で9.2%である。

このことから、文化的体験に関しては、学年別には5年生の方がより多く体験している。ただし、男女差はともに認められない。

第2に、自然体験について聞いた。

表11-1では、「花や野菜などの植物を育てましたか」を聞いた。男女別にも、学年別にもともに有意差が認められる。男女別にみると、「はい」と答えた者は、男子で31.2%、女子で46.6%。また、学年別にみても、「はい」と答えた者は、5年生で46.6%、6年生で31.8%である。

表11-1 植物（花や野菜など）を育て、水やりをしましたか（自然体験）

	学年別		男女別		全体
	5年生	6年生	男子	女子	
はい	46.6	31.8	31.2	46.6	38.7
いいえ	53.4	68.2	68.8	53.4	61.3
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

$\chi^2=19.98$   
df=1  
p<.0001

$\chi^2=21.82$   
df=1  
p<.0001

表10-2 美術館に行きましたか（文化的体験）

	学年別		男女別		全体
	5年生	6年生	男子	女子	
はい	19.0	9.2	12.2	15.5	13.8
いいえ	81.0	90.8	87.8	84.5	86.2
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

$\chi^2=17.25$   
df=1  
p<.0001

$\chi^2=1.79$   
df=1

表11-2 昆虫をつかまえ、虫かごなどに入れて飼いましたか（自然体験）

	学年別		男女別		全体
	5年生	6年生	男子	女子	
はい	28.1	17.6	26.0	18.9	22.6
いいえ	71.9	82.4	74.0	81.1	77.4
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

$\chi^2=13.35$   
df=1  
p<.001

$\chi^2=6.12$   
df=1  
p<.05

表11-2では、「昆虫をつかまえ虫かごに入れて飼いましたか」を聞いた。男女別にも、学年別にもともに有意差が認められる。男女別にみると、「はい」と答えた者は、男子で26.0%、女子で18.9%。学年別にみると、「はい」と答えた者は、5年生で28.1%、6年生で17.6%である。

このことから、自然体験に関しては、学年別には5年生の方がより体験している。男女別には、「植物を育てる」のは女子の方が多く、「昆虫を飼う」のは男子の方が多く体験していることがわかる。

第3に、人とのかかわりの体験について聞いた。

表12-1では、「同じ学級の人と遊びましたか」という設問で聞いた。男女別にも、学年別にも、ともに有意差が認められる。男女別をみると、「はい」と答えた者は、男子で63.3%、女子で50.9%。学年別にみると、「はい」と答えた者は、5年生で51.1%、6年生で62.7%である。

表12-2では、「他の学年や他の学級の人

表12-1 同じ学級の人とよく遊びましたか（人とのかかわり体験）

	学年別		男女別		全体
	5年生	6年生	男子	女子	
はい	51.1	62.7	63.3	50.9	57.2
いいえ	48.9	37.3	36.7	49.1	42.8
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

$\chi^2=11.94$   
df=1  
p<.001

$\chi^2=13.57$   
df=1  
p<.001

とよく遊びましたか」という設問で聞いた。男女別にみると、「はい」と答えた者は、男子で51.5%，女子で43.6%と有意差がみられた。だが、学年別には、有意差は認められなかった。

このことから、人とのかかわり体験に関しては、男女差が大きいことがわかる。同級生と遊んだり、他学年や他の学級の者と遊ぶのが多いのは男子である。

第4に、創作体験について聞いている。

表13-1では、「絵を描きましたか」という設問で聞いた。男女別にも、学年別にもともに有意差が認められる。男女別をみると、「はい」と答えた者は、男子で51.9%，女子は73.5%。学年別をみると、「はい」と答えた者は、5年生で65.9%，6年生で59.4%である。

表13-1 絵を描きましたか（創作体験）

	学 年 別		男 女 別		全 体
	5年生	6年生	男 子	女 子	
は い	65.9	59.4	51.9	73.5	62.4
い い え	34.1	40.6	48.1	26.5	37.6
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

$\chi^2=4.09$        $\chi^2=43.89$   
 $df=1$              $df=1$   
 $p<.05$              $p<.0001$

表12-2 他の学年・学級の人とよく遊びましたか（人とのかかわり体験）

	学 年 別		男 女 別		全 体
	5年生	6年生	男 子	女 子	
は い	50.7	45.1	51.5	43.6	47.8
い い え	49.3	54.9	48.5	56.4	52.2
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

$\chi^2=2.55$        $\chi^2=5.23$   
 $df=1$              $df=1$   
 $p<.05$

表13-2 自分でおもちゃを作って遊びましたか（創作体験）

	学 年 別		男 女 別		全 体
	5年生	6年生	男 子	女 子	
は い	20.0	11.0	21.4	8.5	15.3
い い え	80.0	89.0	78.6	91.5	84.7
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

$\chi^2=13.47$        $\chi^2=27.95$   
 $df=1$              $df=1$   
 $p<.001$            $p<.0001$

表13-2では、「自分でおもちゃを作って遊びましたか」という設問で聞いた。男女別にも、学年別にもともに有意差が認められる。男女別にみると、「はい」と答えた者は、男子で21.4%，女子で8.5%である。学年別にみると、「はい」と答えた者は、5年生で20.0%，6年生で11.0%である。

このことから、創作体験に関しては、学年別には5年生の方がより多く体験している。男女別にはともに有意差が認められるが、「絵を描く」のは女子の方が多く、「自分でおもちゃを作る」のは男子の方が多く体験していることがわかる。

第5に、夏休みに行った社会体験について聞いている。

表14-1では、「公民館やコミュニティセンターを利用しましたか」という設問で聞いた。男女別にも、学年別にも、ともに有意差が認められなかった。ちなみに、男女別をみると、「はい」と答えた者は、男子で59.2%，女子は64.8%。学年別をみると、「はい」と

表14-1 公民館やコミュニティセンターを利用しましたか（社会体験）

	学 年 別		男 女 別		全 体
	5年生	6年生	男 子	女 子	
は い	63.8	60.3	59.2	64.8	61.9
い い え	36.2	39.7	40.8	35.2	38.1
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

$\chi^2=1.09$        $\chi^2=2.76$   
 $df=1$              $df=1$

夏休みにおける子どもの生活体験

答えた者は、5年生で63.8%、6年生で60.3%である。

表14-2では、「地域の奉仕活動に参加しましたか」という設問で聞いた。男女別をみると、「はい」と答えた者は、男子で58.0%、女子は71.1%と有意差がみられる。他方、学年別をみると有意差がみられず、「はい」と答えた者は、5年生で63.3%、6年生で65.2%である。

第6に、夏休みに行った芸術文化体験について聞いている。

表15-1では、「コンサートやお芝居に行きましたか」という設問で聞いた。男女別には有意差が認められる。男女別には、「はい」と答えた者は、男子で10.3%、女子は25.7%である。なお、学年別には、「はい」と答えた者は、5年生で16.9%、6年生で18.5%と差はない。

表14-2 地域の奉仕活動に参加しましたか (社会体験)

	学年別		男女別		全体
	5年生	6年生	男子	女子	
はい	63.3	65.2	58.0	71.1	64.3
いいえ	36.7	34.8	42.0	28.9	35.7
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

$$\chi^2=0.22 \quad \chi^2=16.18$$

$$df=1 \quad df=1$$

$$p<.0001$$

表15-1 コン서트やお芝居に行きましたか (芸術文化体験)

	学年別		男女別		全体
	5年生	6年生	男子	女子	
はい	16.9	18.5	10.3	25.7	17.8
いいえ	83.1	81.5	89.7	74.3	82.2
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

$$\chi^2=0.29 \quad \chi^2=35.62$$

$$df=1 \quad df=1$$

$$p<.0001$$

表15-2 楽器の演奏をしましたか (芸術文化体験)

	学年別		男女別		全体
	5年生	6年生	男子	女子	
はい	20.3	20.6	7.7	34.0	20.5
いいえ	79.7	79.4	92.3	66.0	79.5
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

$$\chi^2=0.00 \quad \chi^2=94.45$$

$$df=1 \quad df=1$$

$$p<.0001$$

表15-2では、「楽器の演奏をしましたか」という設問で聞いた。男女別には有意差が認められる。男女別には、「はい」と答えた者は、男子で7.7%、女子は34.0%である。学年別には、「はい」と答えた者は、5年生で20.3%、6年生で20.6%と差はない。

第7に、夏休みに行った家庭生活体験について聞いている。

表16-1では、「手芸をしましたか」という設問で聞いた。男女別をみると、「はい」と答えた者は、男子で2.1%、女子は39.2%と有意差がみられる。学年別をみると、「はい」と答えた者は、5年生で25.7%、6年生で15.2%と有意差がみられた。

表16-2では、「おかし作りをしましたか」という設問で聞いた。男女別をみると、「はい」と答えた者は、男子で12.2%、女子は56.9%と有意差がみられる。学年別をみると、「はい」と答えた者は、5年生で40.9%、6年生で27.9%と有意差がみられた。

表16-1 手芸をした (家庭生活体験)

	学年別		男女別		全体
	5年生	6年生	男子	女子	
はい	25.7	15.2	2.1	39.2	20.2
いいえ	74.3	84.8	97.9	60.8	79.8
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

$$\chi^2=14.83 \quad \chi^2=191.17$$

$$df=1 \quad df=1$$

$$p<.0001 \quad p<.0001$$



夏休みにおける子どもの生活体験

る(6)。

まず第1に、自然体験と「理科」に対する好き嫌いとの関連をみていく。

表18-1では、「植物(花や野菜)を育て、水やりをする」という体験をした者とそうで

ない者との関連をみた。有意差がみられた。この体験をした者では、理科を「たいへん好き」と答えた者が26.9%である。これ対して、この体験をしなかった者では、理科を「たいへん好き」はすこし少なく20.7%である。

表18-2では、「昆虫をつかまえ、虫かごなどに入れて飼う」という体験をした者とそうでない者とは、理科を好きかどうかの関連をみている。有意差がみられた。この体験をした者では、理科を「たいへん好き」と答えた者が34.3%、「あまり好きでない・きらい」と答えた者が15.4%である。他方、この体験をしなかった者では、理科を「たいへん好き」と答えた者はすこし少なく、20.2%である。

第2に、人とのかかわり体験と「体育」に対する好き嫌いとの関連をみていく。

表19-1では、「同じ学級の人とよく遊ぶ」という体験をした者とそうでない者との関連をみた。有意差がみられた。この体験をした者では、体育を「たいへん好き」と答えた者が60.5%、「あまり好きでない・きらい」と答えた者が13.8%である。他方、この体験をしなかった者では、体育を「たいへん好き」と答えた者はすこし少なくなり、45.0%である。

表19-2では、「他の学年や他の学級の人とよく遊ぶ」という体験をした者とそうでない者との関連をみた。有意差がみられた。この体験をした者では、体育を「たいへん好き」と答えた者が60.6%、「あまり好きでない・きらい」と答えた者が14.6%である。他方、この体験をしなかった者では、体育を「たいへん好き」と答えた者はすこし少なくなり、47.6%である。

表18-2 自然体験と「理科」好き

(理 科)	たいへん好き	まあまあ好き	あまり好きでない・きらい	計
昆虫をつかまえ、虫かごなどに入れて飼った	34.3 (69)	50.3 (101)	15.4 (31)	100.0 (201)
しなかった	20.2 (140)	51.5 (356)	28.3 (196)	100.0 (692)

$$\chi^2=23.47 \quad df=2 \quad p<.0001$$

表19-1 人とのかかわり体験と「体育」好き

(体 育 科)	たいへん好き	まあまあ好き	あまり好きでない・きらい	計
同じ学級の人とよく遊んだ	60.5 (311)	25.7 (132)	13.8 (71)	100.0 (514)
遊んでない	45.0 (172)	28.5 (109)	26.5 (101)	100.0 (382)

$$\chi^2=28.60 \quad df=2 \quad p<.0001$$

表19-2 人とのかかわり体験と「体育」好き

(体 育 科)	たいへん好き	まあまあ好き	あまり好きでない・きらい	計
他の学年や学級の人とよく遊んだ	60.6 (257)	24.8 (105)	14.6 (62)	100.0 (424)
遊んでない	47.6 (222)	28.8 (134)	23.6 (110)	100.0 (466)

$$\chi^2=17.53 \quad df=2 \quad p<.001$$

第3に、創作体験と「図画工作」に対する好き嫌いとの関連をみていく。

表20-1では、「絵を描く」という体験をした者とそうでない者との関連をみた。有意差がみられた。この体験をした者では、図画工作を「たいへん好き」

と答えた者が49.7%、「あまり好きでない・きらい」と答えた者が19.5%である。他方、この体験をしなかった者では、図画工作を「たいへん好き」と答えた者は少なくなり、34.7%である。

表20-2では、「自分でおもちゃを作って遊ぶ」という体験をした者とそうでない者との関連をみた。有意差がみられた。この体験をした者では、図画工作を「たいへん好き」と答えた者が62.5%、

「あまり好きでない・きらい」と答えた者が13.2%である。他方、この体験をしなかった者では、図画工作を「たいへん好き」と答えた者はすこし少なくなり、40.7%である。

第4に、社会体験と「社会」に対する好き嫌いとの関連をみていく。

表21-1では、「公民館やコミュニティセンターを利用する」という体験をした者とそうでない者との関連をみた。有意差がみられた。この体験をした者では、社会を「たいへん好き」と答えた者が20.3%、「あまり好きでない・きらい」と答えた者が37.2%である。他方、この体験をしなかった者では、社会を「たいへん好き」と答えた者は少なくなり、15.6%である。

表20-1 創作体験と「図画工作」好き

(図画工作)	たいへん好き	まあまあ好き	あまり好きでない・きらい	計
絵を描いた	49.7 (281)	30.8 (174)	19.5 (110)	100.0 (565)
しなかった	34.7 (117)	35.9 (121)	29.4 (99)	100.0 (337)

$\chi^2=21.42$  df=2 p<.0001

表20-2 創作体験と「図画工作」好き

(図画工作)	たいへん好き	まあまあ好き	あまり好きでない・きらい	計
自分でおもちゃを作って遊んだ	62.5 (85)	24.3 (33)	13.2 (18)	100.0 (136)
しなかった	40.7 (308)	34.4 (260)	24.9 (188)	100.0 (756)

$\chi^2=22.73$  df=2 p<.0001

表21-1 社会体験と「社会」好き

(社会科)	たいへん好き	まあまあ好き	あまり好きでない・きらい	計
公民館やコミュニティセンターを利用した	20.3 (113)	42.5 (237)	37.2 (207)	100.0 (557)
しなかった	15.6 (53)	35.6 (121)	48.8 (166)	100.0 (340)

$\chi^2=11.99$  df=2 p<.001

表21-2 社会体験と「社会」好き

(社会科)	たいへん好き	まあまあ好き	あまり好きでない・きらい	計
地域の奉仕活動に参加した	20.7 (119)	41.9 (241)	37.4 (215)	100.0 (575)
しなかった	15.3 (49)	36.3 (116)	48.4 (155)	100.0 (320)

$\chi^2=10.89$  df=2 p<.01

夏休みにおける子どもの生活体験

表21-2では、「地域の奉仕活動（清掃など）への参加」という体験をした者とそうでない者との関連をみた。有意差がみられた。この体験をした者では、社会を「たいへん好き」と答えた者が20.7%、「あまり好きでない・きらい」と答えた者が37.4%である。他方、この体験をしなかった者では、社会を「たいへん好き」と答えた者は少なくなり、15.3%である。

第5に、芸術文化体験と「音楽」に対する好き嫌いとの関連をみていく。

表22-1では、「コンサートやお芝居に行く」という体験をした者とそうでない者との関連をみた。有意差がみられた。この体験をした者では、音楽を「たいへん好き」と答えた者が53.1%、「あまり好きでない・きらい」と答えた者が14.4%である。他方、この体験をしなかった者では、音楽を「たいへん好き」と答えた者はすこし少なくなり、30.6%である。

表22-1 芸術文化体験と「音楽」好き

(音楽科)	たいへん好き	まあまあ好き	あまり好きでない・きらい	計
コンサートやおしばいに行った	53.1 (85)	32.5 (52)	14.4 (23)	100.0 (160)
行かなかった	30.6 (226)	37.3 (276)	32.1 (237)	100.0 (739)

$\chi^2=34.41$  df=2 p<.0001

表22-2では、「楽器の演奏をする」という体験をした者とそうでない者との関連をみた。有意差がみられた。この体験をした者では、音楽を「たいへん好き」と答えた者が66.1%、「あまり好きでない・きらい」と答えた者が8.1%である。他方、この体験をしなかった者では、音楽を「たいへん好き」と答えた者はすこし少なくなり、26.5%である。

表22-2 芸術文化体験と「音楽」好き

(音楽科)	たいへん好き	まあまあ好き	あまり好きでない・きらい	計
楽器の演奏をした	66.1 (123)	25.8 (48)	8.1 (15)	100.0 (186)
しなかった	26.5 (190)	39.1 (280)	34.4 (246)	100.0 (716)

$\chi^2=109.15$  df=2 p<.0001

第6に、家庭生活体験と「家庭」に対する好き嫌いとの関連をみていく。

表23-1では、「手芸をする」という体験をした者とそうでない者との関連をみた。有意差がみられた。この体験をした者では、家庭を「たいへん好き」と答えた者が68.3%、「あまり好きでない・きらい」と答えた者が4.4%である。他方、この体験をしなかった者では、家庭を

表23-1 家庭生活体験と「家庭」好き

(家庭科)	たいへん好き	まあまあ好き	あまり好きでない・きらい	計
手芸をした	68.3 (125)	27.3 (50)	4.4 (8)	100.0 (183)
しなかった	37.4 (268)	38.8 (278)	23.8 (171)	100.0 (717)

$\chi^2=64.99$  df=2 p<.0001

「たいへん好き」と答えた者はすこし少なくなり、37.4%である。

表23-2では、「お菓子づくりをする」という体験をした者とそうでない者との関連をみた。有意差がみられた。この体験をした者では、家庭を「たいへん好き」と答えた者が66.9%、「あ

まり好きでない・きれい」と答えた者が6.2%である。他方、この体験をしなかった者では、家庭を「たいへん好き」と答えた者はすこし少なくなり、31.6%である。

表23-2 家庭生活体験と「家庭」好き

(家庭科)	たいへん好き	まあまあ好き	あまり好きでない・きれい	計
おかし作りをした	66.9 (206)	26.9 (83)	6.2 (19)	100.0 (308)
しなかった	31.6 (187)	41.4 (245)	27.0 (160)	100.0 (740)

$$\chi^2=113.7 \quad df=2 \quad p<.0001$$

以上の結果は、夏休みににおける子どものおこなった生活体験と学校での教科学習とが深い関連性にあることを示しているといえはしないか。教科の好き嫌いとは夏休みの生活体験とが関連しているということは、教科の学習を拡充する役割を夏休みの生活体験が担っているといえる。もちろん、こうした生活体験を行うことが多いか少ないかということが、教科学習への関心を深めたり、興味を高めているのか。あるいは逆に、教科学習での興味や関心が、夏休みの生活体験をいっそう高めているのか。この相互の影響関係が存在していることを読みとれるだろう。

## 結 語

最後に、本研究から明らかになったことを指摘しておく。

まず第1に、夏休みは「楽しい」とほとんどの子どもから受けとめられていること。しかし、学年別にみると、5年生に比べると、6年生の楽しさ感覚が減少していること。この原因を子どもの生活体験の減少としてとらえ検討すると、博物館や美術館などをはじめとする社会教育関連施設などの見学および事業への参加等の文化的体験、身近な昆虫や植物とかかわる自然体験、他の学年や学級の人とかかわるかかわり体験、絵を描くなどの創作体験、手芸やお菓子づくりに家庭で取り組む家庭生活体験など、いずれも5年生よりも6年生の体験が減少している。

このことから、生活体験の量的、質的な豊かさが、夏休みの楽しさ感覚を規定しているのではないかと考えられる。また、近い将来の週5日制の完全実施による休日の増加に対応し、子どもの生活経験の豊かさをどのように図っていくかという問題は、休日における子どもの生活の充実という点から重要だと考えられる。

第2に、夏休みの生活体験の中でも、最も大きなウェイトを占めていると考えられる家庭生活での生活体験をみた。家庭生活を衣、食、住の3領域に区分してみたが、いずれの分野においても、女子の方が男子に比べて、お手伝いをよくしていることがわかる。このことから、夏休みなどの長期休業日を含め、週5日制による休日の増加は女子の家庭における生活体験を増加させることに、より関連していることは予想される。このために、男子の生活体験を増加させる機会として、どのような取り組みが必要になるのか。こうした検討課題が生まれている。

第3に、学校教育での「教科」学習に対して、子どもが好きか、そうでないかという教科に対する子どもの学習意識が、子どもの夏休みの生活体験にどのような影響を及ぼしているかをみてきた。そして、理科好きな子どもは自然体験を、社会科好きな子どもは社会体験を、体育好きな子どもは遊びを通じた人とかかわり体験を、音楽好きな子どもは芸術文化体験を、家庭科好きな子どもは家庭生活体験を、図画工作好きな子どもは創作体験を、よくしていることが明らかとなった。

このことから、子どもが夏休みに取り組む生活体験といっても、学校での教科学習との結びつきが強いことと同時に、子どもの生活体験それ自体に偏りがみられることが理解できた。したがって、たとえば、理科好きでない子どもの自然体験を質量ともどのように豊かにしていくかは重要な課題になると考えられる。学校教育での理科学習があまり好きでない子どもに、夏休みの自然体験を通して、理科学習への興味や関心を高める手だて等の開発も重要になっているのではないか。

以上、夏休みの子どもの生活体験に関して、体験の量的な側面に重点をおきながら、その課題や問題は何かを探ってきた。こうした課題をどう解決していくか、どう方策を立てていくか。また、わが国の学校教育のなかで、夏休みがどのように位置づけられてきたか。さらには、夏休みをどのように子どもや保護者が受けとめて対応してきたかを歴史的に検討し、夏休みが子どもの生活体験の拡充・深化にはたしてきた機能(役割)をいっそう明らかにしていくことが、今後の本研究の延長線上にある課題であると考えている。

注)

- (1) 次の5点をあげている。①子ども一人ひとりが自分の生活の計画を立て、自主性・自律性を高める。②自分の興味・関心に基づいて、学校生活では得られない体験をし、個性を伸ばす機会となる。③学校の教育活動から離れて、ゆっくり心身の休養をとり、健康の維持・増進や治療の機会とする。④日頃の学習の補充とともに、自由研究などによって学習を深める機会とする。⑤家族の一員としての自覚を高め、家族団欒のよい機会となる。伊藤敏「子どもが変わる夏休み」『児童心理』平成7年8月号、金子書房、108-112頁。
- (2) なお、夏休みの意義について指摘したものとして、次のものがある。新堀通也「夏休みの現代的意義」『児童心理』(特集 夏休みのしつけ)、昭和48年8月号、金子書房、1-10頁。上田薫「夏休みの存在価値—現代の学校教育における意義—」『児童心理』(特集 夏の体づくり・心づくり)、昭和56年8月号、金子書房、21-32頁など。また、夏休みの生活を論じた雑誌の特集として、『学遊』(平成3年8月号:特集 夏休みと教師・家庭、第一法規)があり、佐藤秀夫「学校と夏休み」、下村哲夫「夏休みの学校・教師と法規」、松田義幸「夏休みと親」、高山英男「夏休みと子ども」など。
- (3) 深谷和子「子どもの体験学習を支える家庭」『児童心理』、昭和54年8月号、金子書房、44-49頁参照。
- (4) 無藤隆『体験が生きる教室』金子書房、平成6年。および、河野重男「体験学習の今日的課題」、山田勉「体験学習の教育的考察」松本美津枝他「夏休みにおける体験学習のさせ方」『児童心理』(特集 体験を通して学ぶ)、昭和54年8月号、金子書房参照。
- (5) 坂本昇一『新学力観に立つ体験学習の工夫と展開』教育開発研究所、平成7年。および、中野重人「体験が生きる教育」『児童心理』平成3年8月号、金子書房、11-16頁参照。
- (6) 山極隆「自然の中で、自然から学ぶ—学校教育における体験の役割—」『学校経営』平成6年8月号、第一法規、6-14頁参照。

備考： 小論は、1996(平成8)年6月8~9日に開催された、第3回日本子ども社会学会(山口県立大学国際文化学部)で発表(大橋香織と共同発表)した原稿に加筆したものである。なお、調査の実施にあたっては、教育学部学生 大西直美、大学院生 大橋香織の協力を得た。